

2023/08/20

説教題：ヨハネの手紙 第二

鍵となる聖句：ヨハネの手紙 第二 1-2 節：「長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。²このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも私たちとともにあります。」

皆さん、おはようございます。皆さんに質問があります。ヨハネの手紙二についての説教を最後に聞いたのはいつですか？ヨハネの手紙は短い手紙です。新約聖書の中には、たった1章しかない書簡がいくつかありますが、しばしば見落とされ、私たちはあまり時間をかけて学ぶことはありません。ですから、私は、新約聖書の短い手紙のひとつを通して、神が私たちに教えられたかったことを皆さんにご紹介したいと、時々思っていました。昨年、私は使徒パウロが書いたピレモンへの手紙、たった1章しかありませんが、についてのメッセージをしました。今日は、使徒ヨハネの第二の手紙を紹介したいと思います。ヨハネの第一の手紙はとても人気があり、それは5章からなり、神の民に対する多くの重要な勧告が詰まっています。そして、その手紙についてのメッセージをお聞きになったことが、きっとあるでしょう。しかし、今日は、ヨハネの第二の手紙の全13節を取り上げたいと思います。

しかしその前に、ヨハネという名前の人物と新約聖書への彼の貢献についてお話ししたいと思います。このヨハネという人物を覚えておられるでしょうか？イエスが選んだ最初の12使徒の一人です。マタイの福音書10章2-4節にこれらの12人の名前が挙げられています。その2節を読みましょう。 - 「さて、十二使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、」新約聖書に登場する12人のリストでは、常にこの4人の名前が一番上に出てきます：ペテロとその兄弟アンデレ、ヤコブとその兄弟ヨハネです。この4人のうち、3人はイエスにとって特に重要な人物でした：ペテロ、ヤコブ、ヨハネです。イエスはこの3人を変貌山の頂上に連れて行き、その後、ゲッセマネの園で大きな苦悩の時に、この3人に同行を求めました。

ヨハネはヨハネによる福音書の著者です。興味深いことに、ヨハネは福音書の中で自分の名前を挙げていません。その代わり、ヨハネの福音書 13 章 23 節、19 章 26 節、21 章 20 節などでは、自分のことを「イエスが愛された弟子」と呼んでいます。同様に、ヨハネの第一、第二、第三書簡においても、彼は自分の名前を挙げていません。これらの書簡の文体は、ヨハネによる福音書の文体と類似していますので、ヨハネはこれら 3 つの書簡の著者とみなされています。

興味深いことに、ヨハネの黙示録の著者は、その最初の章と最後の章の何カ所かで、自らをヨハネと名乗っています。黙示録の著者がヨハネ福音書を書いた人物と同一人物なのか、それともヨハネという別の人物なのかについては、昔も今も議論があります。文体はまったく異なりますが、黙示録にはヨハネによる福音書や 3 つの書簡と共通する主題的要素があるため、非常に古くから、使徒ヨハネはこれら 5 つの書物すべての著者とみなされてきました。ひっくり返して、それらは「ヨハネ文書」として言及されています。つまり、使徒ヨハネによって書かれた新約聖書の 5 つの書物です。これらは紀元 1 世紀末に書かれました。

ヨハネとその兄弟ヤコブにつけられたあだ名を覚えていますか。マルコの福音書 3 章では、十二弟子のリストがもう一つ出てきますが、そのリストにはヤコブとヨハネについてももう少し詳しく書かれています。マルコの福音書 3 章 16 - 17 節を読みましょう - 「こうして、イエスは十二弟子を任命された。そして、シモンにはペテロという名をつけ、¹⁷ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、このふたりにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。」

雷の子。この兄弟は非常に情熱的な説教者（伝道者）でした。彼らの情熱は時に行き過ぎました。ルカの福音書 9 章で、イエスがエルサレムに向かって旅をしていたときの興味深い話があります。イエスは途中の村で一晩泊まる場所が必要でした。ルカの福音書 9 章 52 - 54 節を読みましょう。 - 「ご自分の前に使いを出された。彼らは行って、サマリヤ人の町にはいり、イエスのために準備した。⁵³しかし、イエスは御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリヤ人はイエスを受け入れなかった。（思い出してください：サマリヤ人とユダヤ人は、一般的に、お互いに嫌っていました。そして、この町のこれらのサマリヤ人たちは、ユダヤ人の首都であるエルサレムに向かっていくことが気に入りませんでした。）続けて 54 節を読みましょう。 - 「弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を呼び下して、

彼らを焼き滅ぼしましょうか。」ヤコブとヨハネは、サマリア人がイエスに対して見せた無礼な態度にかなり腹を立てていたので、兄弟たちは、列王記 第二1章で預言者エリヤがしたことと同じようなことをして、神の敵を滅ぼすために火を呼ぼうと考えました。しかし、イエスは兄弟たちを叱責し、イエスは人々を滅ぼすためにこの世に来られたのではないと告げられました。この言葉の後、イエスと弟子たちは、宿を見つけるために、次の村に移動します。私たちはこの物語から、この2人の兄弟の情熱と、彼らが“雷の息子たち”と呼ばれるようになった理由を知ることができます。

使徒の働き の最初の方に、ヨハネの弟ヤコブに起きた事が書かれています。使徒の働き 12章 1-2節に、ヘロデ王がヤコブを処刑したことが記されています。ゼベダイの子ヤコブは、十二使徒の中で最初に殉教した使徒です。一方、十二使徒の中で最も長生きした使徒は、ゼベダイのもう一人の子ヨハネです。彼の著作が1世紀末に書かれた可能性が高いからです。こうした理由から、ヨハネは十二弟子の中で最も若い弟子と考えられています。伝承によれば、晩年に、ヨハネはエペソの町に住み、その周辺地域で宣教を行いました。黙示録の著者は、彼がパトモス島に流されたと述べています。パトモス島は、エペソがあるアジア州の西、エーゲ海に浮かぶ島のひとつです。

それでは、ヨハネの手紙 第二に移りましょう。1-2節を読みましょう。 - 「長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。²このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも私たちとともにあります。」

大抵の新約聖書の書簡は、手紙の書き手の名前です。ここでは、彼自身を「長老」として身元を明かしています。これは、彼の働きのこの期間、彼自身を言及するために使った方法のように見えます。

次に、手紙の宛先が記されています：「選ばれた婦人とその子供たちへ」。この「選ばれた婦人」とは誰だのことでしょうか？他の英訳聖書では“the elect lady”（選ばれた婦人）となっています。ヨハネは特定の女性とその子供たちに向けて書いているのでしょうか。実は、ヨハネがここで書いているのは女性ではなく、教会に宛てたものであることが長い間認められてきました。ギリシャ語で「教会」を意味する単語は *ekklēsia* で、これは女性名詞です。覚えておいてください：ギリシャ語や他の多くの言語では、名詞は男性名詞か女性名詞に分類されます。*ekklēsia* という単語は女性名

詞なので、著者はここで、自分の会衆を“選民の婦人”と呼ぶことにしたのです。ここで、ギリシャ語の“婦人”はキリアと言います。もちろん女性名詞です。しかし、この言葉は“婦人”という意味だけではありません。当時のギリシア社会では、キリアという言葉はギリシアの都市国家における社会的な小単位、つまり特定の人々の集団を指す言葉としてよく使われていました。教会は共同体ですから、ヨハネがクリスチャンの共同体に向かってこのキリアという言葉を使うのは、極めて適切なことでしょう。だから、ヨハネはこの教会をキリアと呼んでいるのだと思われます。

しかし、ヨハネがこの「婦人」という言葉を使ったのには、もう一つ理由がありそうです。新約聖書では、教会を「花嫁」と呼ぶことがあります。ヨハネの黙示録 21:2、9、22:17にもその記述があります。教会はキリストの花嫁ですから、ヨハネが教会を「キリア（婦人）」と呼んだのは、花嫁をイメージしてのことかもしれません。ところで、ギリシャ語の kyria の男性形は kyrios で、“主”を意味します。これは新約聖書が「主」イエス・キリストを指すのに使っているギリシャ語です。

ヨハネはこの手紙を「選ばれた婦人」に宛てて書いています。ここで、elect/chosen というギリシャ語は eklektē です。数週間前の説教で、教会を意味するギリシャ語は ekklēsia であり、それは共に召された人々の集まり…… という意味であるとお話ししました。「選民（選ばれた人）」を意味する言葉は eklektē です。ヨハネはこの手紙を「エクレクトエ・キリア（選ばれた夫人）」、つまり選ばれた人々の集まりに宛てて書いています。新約聖書の多くの箇所、私たちクリスチャンは“選民”と呼ばれています。これは、ヨハネがその手紙の宛先とした人々のグループであり、特定の会衆のクリスチャンたちです。この手紙は「選ばれた婦人とその子供たち」に宛てられていますが、婦人はグループ（信徒）であり、子供たちはそのグループに属する個々のクリスチャンです。

そして、この手紙の最後の節を見てみましょう。ヨハネは手紙を閉じるとき、自分が手紙を書いている信徒について言及しています。13 節では、「あなたが選んだ（選ばれた）姉妹の子どもたちが、あなたがたによろしくと」と言っています。これは著者の出身教会であり、もう一つの選ばれた人々のグループです。この手紙は「長老」と名乗る牧師が書いたもので、彼は自分の教会のメンバーからの挨拶を伝えているのです。

さて、この手紙全体を読んで、この手紙からいくつかの教訓を引き出したいと思います。

ヨハネの手紙 第二 1-13 節 - 「長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。² このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも私たちとともにあります。³ 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。

⁴ あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちに歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいます。⁵ そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。⁶ 愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちに歩むことです。⁷ なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。⁸ よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。⁹ だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。¹⁰ あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。¹¹ そういう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。

¹² あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でしたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。¹³ 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っています。

この手紙を読んでいると、いくつかの重要な言葉が目にとまります。1 節から 4 節までは、“真理”という言葉が何度も繰り返されています。1 節、3 節、5 節、6 節には“愛”という言葉があります。そして 7 節からは手紙のトーンが変わり、“欺く者”と“反キリスト”という言葉が目に入ります。これらのキーワードは、今日の私のメッセージのアウトラインになります：

真実に歩む。
愛のうちに歩む。
欺く者への警告。

パート 1: 真実に歩む

冒頭の箇所をもう一度見てください。

1 節- 「わたしが真理をもって愛する者たち」… 「真理を知っているすべての人」

2 節 - 「真理のために。」

3 節 - 「真理と愛をもって。」

4 節- 「あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちに歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいます。」

ヨハネの福音書の中で、14 章 6 節で、このことを見ます- 「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」イエスは神への道です。イエスは真理です。イエスを通して、永遠の命に至る道があります。

使徒の働き 4 章 12 節 - 「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」イエスの御名以外にはありません。イエスこそ救いに至る唯一の道です。それがキリスト教信仰の根本的な真理です。

次は、ヨハネの最初の書簡の 2 つの節を読みましょう。ヨハネの手紙 第一 5 章 20 - 21 - 「しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。²¹ 子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。」私たちが聖書で読んでいる神は真の神であり、…そして、この書物である聖書は、私たちの創造主との正しい関係を築くための方法を教えています。私たちは偶像を捨て、偽りの宗教を捨て、神から私たちを遠ざけるような偽りの人選観を捨てなければなりません。

ご存知のように、私は最近、大阪インターナショナル・チャーチの信仰声明に関する一連の説教を終えました。このシリーズを行った理由は、私たちが拠って立つ基本的な教義、キリスト教信仰の基本的な教義を思い起こすためだとお話ししました。それらは私たちが立たなければならない真理です。それらは、私たちが自分の人生を生きるための真理なのです。使徒ヨハネの、真理のうちに歩むという願いを思い起こしましょう。私たちは真理によって歩むのであり、福音のメッセージの真理を私たちの心に住ませるのです。

ヨハネの手紙 第三 4 節で、彼はこのように言っています - 「私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」

パート 2 に移りましょう：愛のうちに歩む

ヨハネの手紙 第二 5-6 節 - 「そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。⁶愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおりに、愛のうちに歩むことです。」

互いに愛し合うこと。これが私たちの第一の戒めです。これこそ、私たちが「初めから」持っている戒めだとヨハネは言っています。

ヨハネによる福音書 13 章を読みましょう。逮捕され十字架につけられる前に、イエスが十二使徒に語った最後の言葉のひとつに、次のような言葉があります、ヨハネの福音書 13 章 34 - 35 節 - 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

これはヨハネが第二の手紙で言及している戒めです。クリスチャンは互いに愛し合いなさいという命令です。私たちが主イエス・キリストの弟子であることを人々が知るのは、この互いに愛し合うことによってなのです。これは、私たちが世界に示す重要な証になります。不和の代わりに、キリストに従う者たちの関係が愛によって特徴づけられているのです。

そして赦しによって。エペソ人への手紙 4章 32節 - 「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」

コロサイ人への手紙 3章 13-14節 - 「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。¹⁴そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」

愛と赦し。福音のメッセージの2つの特徴。神は私たちが愛しておられる。神は私たちが赦してくださる。私たちは、同胞であるクリスチャンとの関係において、また同胞である人間との関係において、これらの美德を実践することによって、神の愛と赦しを反映するのです。このようにして、私たちはノン・クリスチャンの世界に対する証人となるのです。

パート3に移りましょう。ここでヨハネの手紙のトーンが変わります。

パート3：欺く者への警告

ヨハネの手紙 第二 7-8節 - 「なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。⁸よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。」

残念なことに、イエス・キリストについて歪んだイメージを持つ偽教師がたくさんいます。こうした偽教師の中には、キリストの完全な人間性を否定する者もいれば、キリストの完全な神性を否定する者もいます。もしそうしなければ、私たちは福音のメッセージの完全性を失い、私たちの周りの世界に証しする効果を失ってしまうでしょう。

読み続けましょう。ヨハネの手紙 第二 9-11節 - 「だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。¹⁰あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのこ

とばをかけてもいけません。¹¹ そういう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。」

9節の「行き過ぎる」とはどういう意味でしょうか。それは、キリストについての使徒たちの教えを越えて、ある種の新しい教えをもたらすことを意味します。私たちはそのような教えに対して警戒しなければいけません。私たちがすでに受けている使徒の教えと一致しない教えは、疑わしいものとして扱わなければなりません。

9節の後半を見ましょう。私たちを守るのは、キリストについてすでに受けた「教えにとどまる」ことです。使徒の教えにとどまるなら、私たちは父なる神とその御子イエス・キリストとの交わりの中にとどまります。これこそが安全な場所です。

この手紙の結びの節に移りましょう。

ヨハネの手紙 第二 12-13節 - 「あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でしたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。¹³ 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っています。」

手紙もいいですが、個人的な訪問はもっといいです。お互いに個人的な交流を持ち、論点を明確にし、質問に答え、励まし合うことができます。

本日のメッセージはここまでとさせていただきます。最後に、先ほどお話しした3つのアウトラインを、順序を逆にしてお話しします：

偽りの教えに注意なさい—あなたが受けた使徒の教えに忠実であり続けなさい。
愛と赦しのうちに歩みなさい。私たちが互いに抱いている愛は、世に対する証しです。
真理の中を歩みなさい。この聖書に示されている真理にしっかりと留まりなさい。